国文学研究資料館年報

National Institute of Japanese Literature

平成20年度(2008)

国文学研究資料館年報

National Institute of Japanese Literature

平成20年度(2008)

口絵１　大学共同利用機関法人　人間文化研究機構　国文学研究資料館（外観）

口絵２　広大な敷地に立つ真新しい新館

口絵 3　展示機能が充実した「展示室」

口絵 4 「展示室」（入口）

口絵 5 「源氏物語一千年紀　記念切手発行記念講演会」を聴く参加者

はじめに

人間文化研究機構国文学研究資料館（National Institute of Japanese Literature）は、研究者コミュニティーからの強い要請と、日本学術会議の勧告のもとに、昭和47（1972）年5月に大学共同利用機関として文部省直轄の研究機関として設立されました。その後、法人化という新しい組織編成のもとに人間文化研究機構を構成する一機関ともなりましたが、今日まで30数年を経、着実にその任務を遂行し、さまざまな成果を得るとともに、国内外の日本文学研究の分野において、重要な役割を果してきました。

また、昭和26年に設立された旧国立史料館とも組織を同じくし、各種の文書史料の活用を基盤とした新たな研究領域の構築を目指しています。

国文学研究資料館は、法人化後、従来の組織を基盤としながら、本年度までの第一期の中期目標・中期計画の期間においては、次の四つの研究系に改編して研究及び事業を精力的に推進してきました。(1) 文学資源研究系、(2) 文学形成研究系、(3) 複合領域研究系、(4) アーカイブズ研究系で、これらが一体となって日本文学、歴史記録資料の総合的な研究に取り組み、人間文化研究機構の課題としています。

併せて、当館の使命として設立当初から存する、国内外の国文学資料の調査、マイクロフィルムや古典籍原本の収集は着実に継続しており、それらを体系的に整理して研究者へ供する方針は今後も揺るぎません。

その一方で、総合研究大学院大学（大学院博士後期課程）における教育にも館を挙げて取り組んでおり、研究者養成の面でも、人文学研究の発展に寄与したいと願っているところです。

現在の人文学研究の置かれた社会的な状況は厳しいものがあります。そのためにも、すでに実施している国内外の大学や研究機関と密接な連携や学術交流をはかり、日本文学及び歴史文書などの共同研究、共同調査、普及活動等をいっそう推進していきたく思っております。

国文学研究資料館が、平成20年3月に品川戸越の創設の地から立川市の新しい建物に全面的な移転し、同年4月から新天地での事業を再開したことは、すでに昨年度の年報でご報告したところです。充実した閲覧室、機能強化された展示室の活用により、知の拠点として、地域との協力、国内外との共同研究に邁進する所存です。今後とも、多くの方々のご協力と、ご理解を賜りますようお願い申し上げます。

平成21年12月

人間文化研究機構
国文学研究資料館長
今西　祐一郎

国文学研究資料館年報

平成20年度（2008）

目　　次

はじめに

Ⅰ　基幹研究 …… 7

Ⅱ　研究プロジェクト …… 10

1. 文学資源研究系 …… 10
2. 文学形成研究系 …… 14
3. 複合領域研究系 …… 20
4. アーカイブズ研究系 …… 22
5. 公募共同研究 …… 27

Ⅲ　情報事業センター …… 29

1. 調査収集事業部 …… 29
2. 電子情報事業部 …… 31
3. 情報資料サービス事業部 …… 38
4. 学術企画連携部 …… 49
   - i）国際交流室 …… 49
   - ii）展示企画室 …… 51
   - iii）広報出版室 …… 52

Ⅳ　新収和古書一覧 …… 56

Ⅴ　各教員実績一覧 …… 62

Ⅵ　科学研究費補助金実績一覧 …… 82

Ⅶ　刊行物一覧 …… 83

Ⅷ　外国人研究員・外来研究員 …… 85

Ⅸ　海外出張・研修一覧 …… 86

Ⅹ　各種委員会一覧 …… 92

Ⅺ　運営会議委員・幹部職員一覧 …… 133

Ⅻ　大学院教育 …… 135

XIII　管理運営（総務・財務） …… 142

付　賛助会 …… 147

付　賛助会

【概　要】

国文学研究資料館では、平成19年度から、当館が行う日本文学研究の推進、若手研究者への奨励、国際交流及び社会連携等の諸活動に幅広く支援を得るために賛助会を設置し、平成21年3月までの会員数は、特別会員2名、賛助会員（個人）100名、賛助会員（団体）7名である。

【会員募集要項】

1　募集対象

当館の事業趣旨に賛同する個人・団体を対象。

2　会員期間

入会日から入会日の属する年度の年度末まで

3　寄付金

特別会員	一口	10万円
賛助会員（個人）	一口	3千円
賛助会員（団体）	一口	1万円

4　入会申込みと寄付金払込みの方法

入会に当たっては、「会員募集のご案内」に添付の申込書を郵送してもらう。

別途、当館から入金に関する案内を返送する。

5　入会した際の優待

（1）　当館が開催する講演会、展示、シンポジウム、研究集会等の催し案内を送付する。

（2）　当館が刊行する広報誌（概要・ニューズ）を送付する。

（3）　特別会員、10口以上の賛助会員（個人）及び3口以上の賛助会員（団体）は、希望により館内に名前（社名等）を掲示する。

（4）　特別会員及び10口以上の賛助会員（団体）は、希望により当館のホームページに社名等を掲載する。

（5）　その他当館が主催する催しについて各種優待をする。

【日本古典文学学術賞】

当館賛助会では、日本古典文学会賞を継承し、若手の日本古典文学等研究者の奨励、援助を目的として、日本古典文学学術賞を制定している。

本学術賞の対象者は40歳未満の若手研究者であり、1回の授賞は3名以内までとしている。対象とする業績は前年の1月から12月までに公表された、日本古典文学に関する論文又は著書としている。

選考方法は、当館賛助会に設置している選考委員会委員からの推薦及び過去の受賞者からの推薦による対象者の論文を選考委員会で審議の上、決定しており、受賞者には賞状と賞金20万円を授与することとしている。

第１回日本古典文学学術賞（対象期間：平成 18～19 年）　受賞者

沖本　幸子氏　（青山学院大学准教授）

研究業績：『今様の時代――変容する宮廷芸能』（東京大学出版会）

北村　昌幸氏　（関西学院大学准教授）

研究業績：「足利尊氏の変貌――『太平記』巻十四の本文改訂をめぐって」

「讒言失脚説話の連鎖とその志向――『北野天神縁起』から『太平記』へ」

「『梅松論』における「異朝」――『太平記』との比較を通じて」

※第１回のみ２年間を対象とした。

ISBN978-4-87592-149-3

大学共同利用機関法人 人間文化研究機構
国文学研究資料館

〒190-0014 東京都立川市緑町10-3
TEL:050-5533-2900 FAX:042-526-8604

URL:http://www.nijl.ac.jp
National Institute of Japanese Literature(NIJL)
National Institutes for the Humanities
Address : 10-3 Midori-cho, Tachikawa city, Tokyo 190-0014, Japan
Telephone : +81-50-5533-2900 Facsimile : +81-42-526-8604